

ドジョウ

Misgurnus anguillicaudatus (Cantor)
コイ目・ドジョウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

県内の水田域に広く確認されるが、また、用排水路の切り下げ等の圃場整備により水田域の生息場所の悪化が著しい。すでに県内で交雑可能な別種の侵入が3か所で確認されており、今後の動向に注目を要する。

種の特徴

全長 15 cm、体は細長く、やや側偏する。口髭は 10 本。メスの方が大きくなる。河川中・下流域、用水路等の流れの緩やかな泥底にすみ、初夏に水田等浅い湿地に進入して産卵する。

分 布

日本全土に分布する。本県でも大小多くの河川、水田域の用排水路等に広く分布する。

生息を脅かす要因

国外産近縁種カラドジョウの浸入により、競合が生じているおそれがある。近年、国外・国内他地域産の個体が食材や釣り餌、希少鳥類の餌等、様々な形で流通しており、水田養殖の逸出等によって在来個体群の生息域に広がり、遺伝的な攪乱を引き起こしている。

参考文献 環境省編 (2015)、長谷川・岡 (2012)、岡 (2010)、川崎・岡 (2009)、日和ら (2014)、石黒ら (2014)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

スジシマドジョウ種群

Cobitis magnostriata Nakajima
コイ目・ドジョウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

琵琶湖の固有種である「オオガタスジシマドジョウ」に似た集団が本県の三方湖に生息するとされるが、種の同定もされていない。前回のレッドデータブックのスジシマドジョウと本種を区別する十分な情報が不足しているため、要注目とした。

種の特徴

全長 8～10cm。琵琶湖の固有種「オオガタスジシマドジョウ」に似た集団で、本県の三方湖に生息するとされる種。種の同定については不明な為「スジシマドジョウの一種」とする。オスの胸鰭基底にある骨質盤が丸く、体側の斑紋はオス・メスとも縦条化する。

分 布

オオガタスジシマドジョウは琵琶湖の固有種で、本種は三方湖とその周辺に分布する個体群をいう。

生息を脅かす要因

護岸工事等による生息環境の悪化が最も大きな要因で、生息地とされる場所のオオクチバス・ブルーギルの増化も本種の生息を脅かす要因と考えられる。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)、斉藤・川崎 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○																

カワアナゴ

Eleotris oxycephala Temminck & Schlegel
スズキ目・カワアナゴ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

九頭竜川水系、三方五湖でわずかに捕獲された記録があるだけである。いずれも偶然による捕獲で本県での生態は不明である。捕獲数が少ないことから多くは生息していないものと推定される。よって今回は要注目とした。

種の特徴

全長 25 cm。体色は黄褐色あるいは暗褐色で、背面が著しく淡色に変わる場合がある。下あごが出ており、頭部の下面には白い斑紋が目立つ。昼間は木の根や岩の下等物陰に潜み、夜間エビや小魚等を食う。

分 布

本州～九州に分布。本県では九頭竜川水系の中流域、三方五湖でわずかに捕獲された記録があるだけである。

生息を脅かす要因

記録地が限定され、評価するだけの情報が不足している。

参考文献 岩田 (2001)、瀬能監修 (2004)、中坊編 (2013)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○								○				○